

第5回（令和5年度第5回）府中市生涯学習審議会会議録

1 日 時 令和5年10月26日（木）午前10時～正午

2 場 所 おもや4階 第1特別会議室

3 出席者（敬称略）

(1) 委員15名

池田和彦委員、市村忠司委員、今関紘二委員、上野和憲委員、江崎章子委員、榎本成子委員、佐野洋委員、白信康委員、関川けい子委員、田頭隆徳委員、立石朝美委員、長畑誠委員、中村洋子委員、福田豊委員、渡邊和子委員

(2) 職員9名

佐藤文化スポーツ部長、鈴木文化生涯学習課長、斎藤文化生涯学習課長補佐、武居生涯学習係長、竹川事務職員、高橋事務職員、山本事務職員
後藤文化・スポーツ施設老朽化対策担当副主幹、
奥文化・スポーツ施設老朽化対策担当主査

4 報告事項

(1) 配布資料の確認

ア 資料1 第4回府中市生涯学習審議会会議録（案）

イ 資料2 第4回生涯学習審議会の意見まとめ

ウ 資料3 生涯学習審議会中間答申（案）

(2) 前回会議録の確認

各委員に校正を依頼した前回会議録（案）について、市民に公開することが了承された。

5 審議事項

(1) 「これからの生涯学習を支える『公共』の役割について」

会長： 今回は以前から話しているように、府中市の様々な施設に関する配置等について、府中市で協議が始まるということで、それに繋がるような中間答申を今年度中に出すこととしている。最終的にどういう施設が府中市の生涯学習の拠点として必要かということで、今でいう生涯学習センターについて、あの場所にはこだわらずに拠点として、こういった役割や機能が必要なのかを、審議会として話してきた。資料2をご覧ください。これは、前回の審議会を出していただいた意見を左上の表のどこに当てはまるかを表したものである。そして、前回の審議会終了後、この意見やこれ以前の意見を基に中間答申の素案を作成した。それが資料3である。1番と2番はこれまでの話し合い

の中から「これからの社会環境」、「これからの生涯学習」ということで、資料2の表の「将来」の部分参考になっている。そして、3番と4番で生涯学習の「拠点」と「機能」について箇条書きで示している。本日はこの資料3について意見を出していただきたい。そして、11月の審議会では、素案ではなく案として出し、その場で修正をしてほぼ確定した形にしたいと考えている。その後のスケジュールとしてはどういった予定なのか。

事務局： 11月の審議会後のスケジュールだが、1月頃に中間答申を行い、その後2月に1回開催する予定としている。

会長： 今説明のあったスケジュールで進むため、11月の審議会の中で細かいところでの修正はいいが、考えなくてはいけないものが出てきてしまった場合は申し訳ないが、正副会長一任ということでご了承いただきたい。大きな流れとしては今説明したようなものである。今年度は施設の特にハード面に結びつくような話をする。2月以降は拠点として具体的に何をやるかというソフト面について、より深めていくことができるため、そういう内容については、次々回以降じっくり話し合うことができるかと思う。

本日の進め方であるが、資料3の1番と2番の文章についても意見をいただきたいが、具体的に市が参考にするのは3番と4番だと思うので、その部分についてより時間をかけて意見をいただきたいと思う。

委員： 配布された中間答申の素案について、前段になるような生涯学習の役割の記述というのは、我々が意見出しで様々な側面から指摘した思いつきの意見を寄せ集めてきて、「環境」というような形でまとめたものであるため、当然だがかなり一般的な指摘、記述であるという印象がある。それは、こういう答申案にはあまり還元されるべきことではないように思う。そのような視点で見ると、文部科学省の方で生涯学習についての必要性やその枠組みを設定して議論しているところがあるため、それを参考にして、我々が出したいろいろな意見を府中市からの観点として付け加えたり、あるいは仮称の指摘に対して我々もそう考えるだとか、そういう形で、記載すると中間答申としてメリハリがつくのではないか。一般的なスタンスの問題として議論をしているが、このような提案、特に府中市で求められている生涯学習活動の個性的な部分というのを特に取り上げて、府中市の生涯学習として、今何が問題なのか、こういう施設について焦点を当てるべきだとか、あるいはここを強化すべきだという形で私達の独自のスタンスから、ハード面に限って議論しないと、一般論としての中間答申案に終わってしまうのではないかという危惧がある。これは、皆さんと広い観点から意見を出し合ったということで、当然かと思うが、

抜けてしまっている観点があったのではないかと思う。私が一番心配しているのは、前回の審議会でも申し上げたことだが、府中市の図書館が、その生涯学習活動が抜けてしまっており、一度も生涯学習審議会で取り上げられたことがないというのはとても不思議である。図書館のホームページを見ても分かるように、運営を任されている事業者は、図書館というのは生涯学習の拠点であるということを打ち出している。それにもかかわらず、我々は生涯学習という観点で連動できていない。府中市の生涯学習に対する中間答申という点では、ぜひその点を入れていただきたいという希望を持っており、府中市ならではの観点からの論点を付け加えていただきたいと思う。

会長： ご指摘の点の前半についてであるが、1番のこれからの社会環境ということで、これは副会長の方で具体的なデータを探していただいている。見ていただくとわかるように日本の高齢化、国際化、経済的な格差、高齢化、単身者の世代など一応データは公開されているものであるため、ある程度は客観性のある文章になっていると思うが、ご指摘のとおり文部科学省が枠組を出しているため、うまく繋げていく必要があったかもしれない。その点について、第11期中央教育審議会が昨年度で終了しており、そこで何を話し合ったかをまとめられているものがあったので追加配布している。全体を見ていただくと、我々が話したことと近いということがわかるかと思う。人の繋がりの変化への対応や、社会的包摂、デジタルデバイドの解消など、我々の話していること自体がここから外れていることはないと思う。ここに書いてあることを1番と2番のところうまく使えないかと思っている。また、追加配布資料の下半分の緑の枠内の、上の部分が1番我々の主題に近いもので、公民館等の社会教育施設の強化の必要性について記載がある。ただこれは、どちらかというソフト面の話で、次の検討テーマにも繋がっていると思うので、その辺りも参考にしたいと考えている。

次に府中市の現状からしっかり話した方がいいのではないかという点であるが、私自身迷っているところとしては、新たな項目として、「府中市の生涯学習が抱えている課題」のようなものを入れた方がその後に繋がりやすいのかと思った。そのため、今回は皆さまにそういった点についてもご意見をいただきたいと考えている。文部科学省の文言を入れることについては、私の方で対応するが、2点目の府中市のことについては皆さまからの意見が必要である。資料3について、意見を伺いたい。

委員： 1番の文章を見て気になった点が2つある。1点目は在留外国人の増加や「府中市でも友好都市・ウィーン市を中心に、仕事や市民生活における国際的な交流も盛んになる」という趣旨のことが書かれてい

るが、府中市に今いる外国人の数や国籍はどこかという分析が必要であるかと思う。ウィーン市との交流は30年前から行われているし、これからさらに発展があるとは予想しづらい。そのため、もう一度府中市に焦点を絞って現状を見たらいいのではないか。もう1点はジニ係数が出てきているが、ジニ係数が高い国は一般的に政情が不安定な国や開発途上国が多い。日本はそっちに向かっているわけでも無いし、ジニ係数上がるのは高齢化によることも要因であることは感覚的にわかる。ただ、なぜ近隣の韓国や台湾、GDPに近いドイツやアメリカではなく、ロシアやイタリアと比較しているのかが疑問に感じた。

副会長： イタリアと比較したのは高齢化率が日本と似ているからである。また、ロシアも人口としては日本より多いが、人口動態として日本と似ているため、比較の対象にした。

委員： ジニ係数は要因が複雑であるため、これを基準にするのは難しいのではないか。

副会長： 議論のためには基準が必要で、それに対して全体動向と府中市の現状がどうなのかということデータを基づいて中間答申にも反映したいと考えている。

会長： 確かにジニ係数はあまり聞きなじみのあるものではないし、要因が複雑で一概には基準とすることは難しいかもしれないので、ここに代わりに入るような数値やデータは検討したいところである。ただ、府中市に特化してしまうと難しくなってしまう部分があるかもしれない。

委員： この部分は言わば導入にあたるため、ここで国際経済などの分析をしてもあまり意味がないように思う。そこまで力を入れなくてもいいのではないか。

会長： この節の元々は多様化であるため、多様化のことがわかる文にすればいいのかもしれない。

委員： ウィーンの話が出てきたが、それは府中市独自の話であるため、現状がどうなっているのかというようなことは把握しておいてもいいかもしれない。私が所属している自治会でも外国人が増えてきており、自治会レベルであるが、多文化共生を実感しているところである。

委員： 今はコンビニエンスストアの店員もほとんどが外国人の方になっている。一昔前はアジア系の人が多かったが、今は白人の方も増えており、国籍はもう関係ないという印象を持っている。調べてみたのだが、現在日本には約300万人外国人がおり、府中市には約5千人いる。内訳は多い順に中国、韓国、フィリピン、アメリカ、、、という順になっている。

会長： 教育現場でも外国籍の子どもは増えているのか。

委員： 小学校レベルで学習支援をしているが、外国人の子どもが増えてい

る印象がある。保育園でもボランティアをしているが、外国籍の方が
増えている印象である。

会長： 経済の話も大事だが、多様化も大事な観点であるため、付け加えて
いきたい。空き家も府中市内では増えているのか。

委員： 自治会レベルであるが、増えている。

委員： 後継者がいないという問題もあるかと思う。

会長： 1番については、今出たようなものを加えたり削除したりして編集
したいと思う。続いて2番に入る。ここは1番からの続きでもある。
内容としては、多様化や多文化共生について市内施設と連携しながら
行っていくことや、障害のあるなし、国籍、性別、年齢等にかかわら
ず、多様な人たちが共に学び、学びあえる場の必要性についても触れ
ている。また、IT・AI化に対応した学びについて触れていて、地域の
人と人とのつながりを醸成するような多様な学びの必要性について、
触れている。この部分は文部科学省が提唱していることとほぼ繋がっ
ているかと思う。2番について、お気づきの点があれば発言いただき
たい。

委員： 本文中に「2021年には、全国の272自治体が電子図書館サー
ビスを実施した」とあるが、これは府中市でも導入されたのか。

委員： このような切り口で参加しているかは分からないが、雑誌閲覧サー
ビスなどを行っているようである。

会長： 文章の流れを考慮すると、もう少し図書館の役割を書いてもいいか
もしれない。前半でITのことに触れているが、後半には「多様な動機
から学びを必要とする者が、その置かれた状況に応じて、能動的に、
かつ効果的に学ぶことのできる学習環境の整備」とあるようにIT化に
特化した内容ではないと思う。

委員： 小中学校はIT化が進んでいる。

委員： タブレットが一人一台6年間貸与されている。

委員： 高齢者にも目を向けてIT化についての講座などがあればより活性化
できるかもしれない。

委員： 自治会連合会という組織があり、府中市内の過半数の自治会が加入
しているものである。その中では、スマホやタブレットの使い方につ
いて講習で展開しても興味がある人はいいが、大多数の方は興味がなく、
あまり意味がないのではないかという話が出ている。

委員： 私の友人にもそういうのをあまり望んでいない人が多い。これから
どうなっていくのか不安に感じている人もいる。

委員： デジタルをどのように落とし込むかというのは必要性和密接に関係
していると思う。例えば企業の中でシステムを導入するといったとき
に上の方のクラスは順応が遅い。しかし、経理の処理などを電子化す
るとなった場合にはやらざるを得ないものである。若い人たちが動画

を見たり、友達とつながるモチベーションとは違う何かを高齢者の人たちの中につけてあげないと落とし込むのは難しいと思う。

委員： 今2、30年先のことという視点で考えていると思うが、今のそういった教育を受けている人達も段々年を取っていくので、これを外してしまうのではなく、段階を踏んでIT等の教育を行っていくことが必要であると思う。

委員： 難しいことではなく、最低限のことでいいから知っておきたいことを知れるようなものが必要である。

会長： 私も他の地域の社会福祉協議会と関わりを持っていたりするが、LINEなどを勉強したいという人たちに話を聞くと孫と連絡を取れるようにという人が多い。そういったモチベーションもあるように思う。次の3番に行く前に冒頭でもお話した今の府中市の生涯学習の課題についても触れる必要があるかと思う。その点についてもこのタイミングでご意見をいただきたいと思う。

委員： プールなどの箱ものが無くなってきている。予約制を導入したので、今はそれほどでもないが郷土の森総合プールに人が集中していた。

委員： 今プールの話が出たが、私は以前の他の府中市の会議などで、プールは無くした方がいいという立場だった。なぜかというと、人が全然いないからである。私が住んでいる地域のプールは夏場でもほとんど人がいなかった。昔は沢山の人が住んでいて、子どもが多いときは利用者もいたが高齢化により、子どももいなくなってしまったのが理由にあると思う。

会長： 一方で入れないような場所もあるため、配置の問題でもあるかと思う。府中市の生涯学習の課題について、図書館と体育施設についての話が出てきた。この話は言い出すときりがないが、今回の話に出ていないところでいうと学校との連携もあるかと思う。

委員： 図書館の関係でいうと学校の図書室との連携も課題になるため会長がおっしゃったように学校との関連性にはなるかと思う。

会長： 社会教育や生涯学習の場としては教育機関も含まれるので、この課題はずっとあるものかと思っている。

委員： 部活動の民間移行が広がればこの話も大きくなっていくかと思う。

委員： 規模が小さいため、学校の図書室には置いてない本が多い。そのため、中央図書館に見に来るという児童・生徒がいるというのも事実である。そういった点についても図書館は機能を拡大していくべきだと思う。能動的に学ぶ人を大切しないといけない。今までの生涯学習の議論は「教える」や「学ばなくていけない」というような観点が前面に出ていて、能動的に学ぶ人を支援するという観点が足りないように思う。例えば検索システムについての講習会を行うことや、データベ

ースにどういったものがあるかと伝える教室をつくることが考えられる。また、重要な点としては司書の役割である。司書は様々な知識を持っているため、今注目を集めている事柄について司書の視点からの解説や、府中市の視聴覚教材の選定に関わることなど、様々な視点からできることが多いと思う。

会長： 能動的に学ぶ人を支援するというのは非常に大事な視点かと思うので、本文中に入れることができるか検討したい。生涯学習サポーターやファシリテーターも活用できるかもしれない。

委員： 生涯学習センターばかりに行くことは難しいので、各地域にある文化センターを活用するのはいいことかと思う。

委員： 文化センターは自主グループ等が日頃から使っているため、どこに学習の場を作るかは非常に難しい。そうすると図書館しかないと思う。

会長： 今回はあくまで、拠点の話であるため入れ込むのは難しいが拠点と文化センターとの棲み分けを行うことの必要性を書くことはできるかもしれない。

副会長： 今は2、30年後の将来を見据えて提言を検討している中で、学習動態として紙の書籍が残っているか、必要かというところも考えなくてはならないのではないかと思う

委員： 歴史的な重要文献などがすべて電子化されているとは限らないので、紙媒体も大切にしないといけないのではないか

副会長： コストバランスも考えなくてはならない。そこを考慮しないと若い人たちへの負債を残すことになってしまうのではないかと思う。

委員： 電子化したとしても、情報の集積場所として図書館があるのは変わりないと思うので、そういう場としての図書館はある。どういう媒体になるかは別として、図書館の重要性については衰えないのではないかと思う。

会長： 図書館のおもしろいところとしては、司書がいる点かと思う。その人が手伝ってくれるというところがあるが、そこは電子化するのは難しいと思う。それがAIになるかというところもある。

委員： 今でも司書の方は検索で本を探しているので、もしかしたら変わってってしまうかもしれない。そのため、司書の方の新しい機能を開発してもらいたいと思う。

委員： 役者の人と話しているとセリフの台本は絶対紙がいいという人が圧倒的である。紙で見て覚えるのと、電子で見るのとでは、全然違うと知っている人が多い。そのため、何を電子化して、何を紙のままにするかという棲み分けも大事になってくると思う。

会長： 図書館の機能というのは必要なものであるのは間違いないため、中間答申の中に入れられるか検討したい。

- 委員：ほかの自治体でも文化センターのような場所に地区図書館が入っているのか
- 事務局：自治体の規模などによってあるところとないところがある。
- 委員：先ほども引き合いに出したが、図書館の運営事業者が生涯学習というキーワードを出しているのはなぜなのか、あるいはどのような内容で打ち出しているのかを調べ、それを手掛かりに図書館の方にも生涯学習プログラムをお願いするなどをした方がいいのではないかと思っている。
- 会長：文部科学省のものを見ると、他機関との連携という部分にあたるかと思う。図書館は生涯学習センターと同じ学習機関であるため他機関といえないところもある。他の機関というと劇場があるが、芸術劇場では、独自のプログラムを実施しているのか。
- 委員：指定管理者が運営しているため、独自のプログラムを実施している部分もあるし、府中市との連携もしているのではないか。
- 会長：生涯学習センターとの連携という点ではどうか。
- 事務局：青少年の音楽活動の育成の場として、生涯学習センターで練習をしたり、出張でコンサートを実施したりしている
- 委員：まちづくり府中との関係は何かあるのか。
- 事務局：まちづくり府中は一般社団法人で、どちらかというところと中心市街地を活性化させることを目的としている。切り口として生涯学習の要素があるものもあるが、どちらかというところと経済・商業の色が強い。
- 会長：それから、社会福祉系との連携は行われているか伺いたい。
- 委員：社会福祉協議会の活動そのものは直接教育や生涯学習を目指したものではないが、社会福祉協議会で動いている人達を見ると、生涯学習のラインの上に乗りながら自分の能力を生かして、誰かのためにといいところでは、生涯学習や学び返しの活動と言えるかもしれない。しかし、目的は全然違うので、ここで審議するのは違うかと思う。
- 会長：例えば、社会福祉に関わる人たちがもっと学びたいと思ったときにその学びの場があるかというところはどうか。
- 委員：社会福祉協議会も手が無いため、市民を巻き込まないと地域に根差した情報を得ることができない。また、興味がある人が来ても個人情報を取り扱う内容であるため講習をしっかりとしないといけない。そのため、後見人や、子どもの介護、虐待などかなり専門性が高い講習会をこまめにやっている。
- 会長：社会福祉系は独自に動いて学習活動を行っているということかと思う。そのため、あえて生涯学習センターと連携しなくても大丈夫ということか。
- 委員：例えば、今までの生涯学習審議会の中で学び返しは個人の趣味とかではなく、地域に還元するという活動が生涯学習の中で増えてきてい

るという話があった。その部分と非常に近いものがあると思っ
ている。生涯学習で成年後見人を育成するという講座をやっても来る人
いないと思うので、社会福祉協議会でやっているから行って見たらと
いうような関係性はありえるかもしれない。ボランティアをしたいと思
っている人は多いがどこから入っていいか分からないという人も多
いが、社会福祉協議会では「ボランティアを始めたい人のための講
座」もやっている。

委員： 社会福祉協議会の活動は地域の自治会を担っている者としてはとて
も重要な問題である。例えばフードドライブや子どもの居場所、子ど
も食堂などの展開が地域コミュニティをベースに行われている。そう
いう人達の活動をサポートするためには、学べることのメニューを用
意するのではなく、実際に主体的にそのような活動を行っている人達
が自分の問題意識をベースにこの問題の根はどこにあるのか、SDGsと
は一体何かを勉強する場として図書館のプログラムが用意されてい
ると、支援や促進が見えてくると思う。我々の生涯学習活動の枠内に入
らないからやらないということではなく、図書館という知のインフラ
を活用することも考えた方がいいのではないか

会長： 学校や図書館、社会福祉系の話も出てきたが、ボランティア団体と
して活動している方にも意見を伺いたい。

委員： この文章を見ているとリスキリング・リカレント、IT、AI、DXと書
いてあるが、これらは主に仕事のためのものである。仕事の先端技術
についていくためや、転職のためなど、再教育的な要素が多い。それ
が悪いとは言わないが、私が大切にしているのは生きがいである。生
きがいがあるから私自身もいたるところに講座を受けに行ったりして
いる。生きいを求めるというのは市民の要求の大事な部分でそれに
応えるのが生涯学習であるように感じている。全体として、もう少し
生きがいに対する市の支援的な要素があってもいいのではないかと感
じた。

委員： 生きがいという視点は私も十分に理解しているが、今まではその
部分にあまりにも偏りすぎていたのではないかと思っている。再就職
や地元で起業するというときにも知識やデータの習得は必要で、そう
いったことが収集できる場も同様に必要である。そのため、再教育的
視点は切り落とさない方がいいのではないか。

委員： 切り落とすのではなく、生きがいの記述ももう少し加えてもいい
のではないかということである。どちらかを切り落とせばいいという
話ではない

委員： 生涯学習センターで資格取得のための講座はやっているのか

委員： 資格取得に特化したような講座は行っていないが、何かを習得する
ような講座は行っている。

委員： 私も生きがいを重要視して日々活動している。そして、もう一つそれに追加して楽しさも重要視している。中間答申案を見ていると楽しくやるという表現が無いので、そういった表現があればいいと思う。また、今回は2、30年先のことを考えて審議していて、私自身そこまで先のことは想像ができないが、30年先でも残っているのは何かと考えたらそれは祭りであると思う。府中市にはくらやみ祭りがある。開催するには、地域の多大なるエネルギーがいる。そのエネルギーをうまく活用していければいいのではないかと思う。

会長： 確かに楽しさという言葉はどこかに入れた方がいいかもしれない。楽しくないと続かないということもある。

副会長： 大学生に話を聞くと自分たちの世代は、「年金は無い」と言っている。若い世代の人たちは生涯にわたり学習を継続する状況であると思う。2、30年後の人口動態において、今の若い人たちが何に生きがいを持つのかということのを推し量るのは難しいが、リスクリングというのは生涯学習として広く捉える時代になってくると思う。

会長： 図書館と社会福祉の入り口にという視点と、まちづくりの視点からも話が出てきた。課題というよりは、入れなくてはいけない要素としてリスクリングなど仕事で必要なものとそれに追加して楽しさや生きがいが必要ということをどこかに入れればと思う。残っている時間で3番と4番について、何かお気づきの点があればご発言いただきたい。

委員： 4番の(8)で「地域に根付く文化活動を支援し創造性を促進する(音楽・演劇・ダンス・美術・工芸・映像等)」とありとても重要なものかと思うが、この中にスポーツがない。今一番盛んなのは、歩こう会や自然環境保全関係や山の会などがある。そういった人たちのことにも触れてあげるのがいいと思う。

会長： 文化・スポーツ活動として、括弧はなくすとより幅広くなるかもしれない。

委員： トレーニング室には器具の使い方などを教えてくれるような人はいるのか。

委員： 生涯学習センターには職員がいる。

委員： 郷土の森総合体育館のトレーニング室にもインストラクターはいる。スポーツの視点で、サッカーの話になるが、今現役で競技をしているのは高齢者の方が多いが、とても楽しそうに行っていて、そのような生きがいもある。スポーツは年を取ったらできないというものでもない。

委員： スポーツと聞くと、どうしても体を動かすことをイメージしてしまうが、定義としては気晴らしや、楽しみということもある。そのため、囲碁やチェス、将棋なども広義としては含まれる。

委員： スポーツで気になる点があるが、それぞれの地域体育館で参加者を募集して事業を行っているが、募集人数が10人や15人などで、とても少ないのではないかと考えている。

委員： 家の近くの地域体育館でも様々なものを行っているが、地域体育館はほかの市民グループも使っているため、どうしてもその人数じゃないとできないということがあるのではないか。スポーツのことでいうと、スポーツを行うことで脳の活性化につながるということもあるため、本文に入れることで裾野が広がるということもあるかもしれない。また、地域コミュニティの衰退についても生涯学習センターの機能を用いて何かできないかと考えている。コミュニケーションツールを知らないといつまでも紙の回覧板でやりとりすることになってしまい、地域コミュニティの衰退が加速してしまうと思う。そういったツールを学ぶことで若い世代の人たちへのアピールにもなるかと思うので、明示的に本文に入れてくれるとありがたい。

会長： 地域コミュニティの件については、3番の(4)で「地域活力を向上するリカレント・リスキリング教育の場所」という文言を入れている。そこが近いのではないかと思うが、ここは「地域活力」と「リカレント・リスキリング」で分けて書いてもいいかもしれない。

委員： 4番の(3)で「学びたいと思った市民が気軽に」のあとに「学ぶことができ」と入れていただきたい。

委員： 「学びたいと思った市民が気軽に学ぶことができ相談できる機能」というのはよく見る表現で意味は理解できるのだが、具体的に何かと聞かれたときにある程度の具体例は必要かと思う。本文を読んだときに具体性がないと感じた。

会長： その点については、読んだ人に考えてもらうということで、あえてそうした部分もある。

委員： だとしても、やはりある程度の裏付けはあった方がいいと思う。

会長： 今の話にあったように括弧書きで追加しないと不親切かもしれない。

委員： 4番の(9)は必要な要素で、今後必ず起きることであるため、助かるための術を学ぶことは重要である。

委員： 府中市は自主防災組織を、各文化センター圏域で組織して連絡会を行っている、そういったことを支援することが必要だと思うが、一般的に生涯学習の拠点の役割として、それを書き加えるということは難しいのかもしれないと思う。

会長： 個々の文言はそのままにするのがいいかもしれない。話にあった4番の(3)と(7)は具体例を追記したいと思う。

委員： 文化生涯学習課のほうで、社会教育関係団体というものを管理していると思うが、令和4年度から5年度にかけて50団体ほど減ってい

るが、それ以前はどうだったかについて伺いたい。また、人口減が直接関係しているか、申請の仕方が変わったのかなどについて、伺いたい。

事務局： 団体数は減少傾向にある。主な理由としては、高齢化で人数が集まらない、コロナを機に会を廃止するなどがある。申請の仕方は変更していない。

委員： 高齢化とコロナ、それぞれの理由だけではなく、2つのことが合わさって会を継続できなくなったという話も聞いている。

委員： 3番のすべての項目の語尾が「場所」になっているが、役割ということであれば無くてもいいのではないか。

会長： 確かに、この項目は語尾をなくしても意味は通じるかと思う。審議いただいて、中身を詰められたと思う。今日いただいた意見を基に正副会長と事務局で検討したい。作ったものを審議会前に皆さんにお送りして見てもらい、次回の審議会で確認して、完成に持っていきたいと思う。

6 その他

次回の審議会の開催時期について、令和5年11月24日（金）の午後2時からおもや4階第1特別会議室にて開催することで、了承を得た。